

あまりに素敵な感想が多すぎて、もうしばらく障スポ®に参加した2年生の感想を抜粋して紹介します。

《陸上競技に補助員として参加した生徒の感想②》

- ・(投擲競技の補助員をしたが)身体が不自由でも、一生懸命に投げている。とても楽しそうにみんなで声をかけあっていて、凄く良い大会だなと思った。自分たちは何でもできるはずなのに、いろいろとさぼって、逃げていることがたくさんあるので、不自由なく動いていることに感謝して、逃げずに、たくさんの方に挑戦していききたい。
- ・(審判員から)移動する際にはしっかりと選手に声かけをする、盲の方には肩を貸すなどの指示が出て、最初は不安だったけど、選手は気さくな方が多く安心して仕事をこなすことができました。普段の生活の中で障害者と接する機会は少なかったもので、いろいろな経験できてよかったです。
- ・目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり等の障害を持っているのにもかかわらず、これまで一生懸命練習をして、ここのまでの成果を出せるのは本当に素晴らしいと思いました。自分も努力して頑張りたいと思いました。
- ・目が見えなくても、ラインぎりぎりまで助走をつけて投げているのを見て凄く思いました。1500m走などを見ましたが、とても良い走りをしていたので、ハテがあるのに凄く思いました。他にも音だけを頼りに100mや50mを走ったり、車椅子で走ったりと、私たちには出来ないような事をしています。感動をありがとうございました。
- ・立幅跳の補助員の仕事を任せられました。仕事は待機場所から選手を競技場まで移動させるというものです。字にすると簡単なように感じられるけど、本当はとっても気を配る精神的に疲れる大変な仕事でした。でも、選手たちの頑張りがとても近くで体感できたので、いい経験ができました。私も選手に負けないように部活の面でも勉強の面でも努力したいと思います。
- ・盲目の人の立幅跳の補助をしました。盲目の人と初めてお話しをしました。とても優しく、鹿児島のことを教えてくれました。(選手が跳んで)砂場から出る時に、計測器にあたりそうになって、それを支えてぶつからないようにできたことがとても嬉しかったです。母が介護の仕事をしているのですが、どうして「楽しいときがある」と言っていたかが分かりました。

担任の先生方は、必要部分を読み聞かせ、しばらく教室掲示して下さい。